



市中心市街地活性化事業
タウンマネージャー
九鬼 麻衣さん
阪急・能勢電鉄川西能勢口駅周辺の中心市街地エリア活性化のため、さまざまな活動に取り組む。「川西駅前ピクニックマルシェ」や「藤ノ木さんかく広場」を運営。

にぎわいを共に育てる
2年ほど前から、阪急・能勢電鉄川西能勢口駅前デッキでは、「川西駅前ピクニックマルシェ」が定期的に開催されています。マルシェを運営するのは、市中心市街地活性化事業タウンマネージャーの九鬼麻衣さん。
「駅前には、川西の玄関口。中心地のにぎわいが、市全体の活気につながると思っています。将来的には、毎日デッキで何かしらのイベントや出店がされている状態になってほしいですね」
駅前デッキは令和3年か

市民プレイヤーが活躍

ら、実証実験でイベントなどが開催されるようになりまし
た。4年には民間団体の活用も始まり、ますます活気が期待されています。
「運用は始まったばかりなので、みんなでこの場所を育てていきたい。出店者さんたちは、自分たちの力でもっと盛り上げようって気持ちがあるんです。それぞれが違う個性や特技を持つ、市民プレイヤー。そんな人たちがここで出会うことで起きる化学反応がすごく面白いんです」
定番となった音楽ステージも、初めはなかったそうですが、「音楽があったほうが良い、



と有志で演奏してくれる人が現れ、徐々にステージの形ができてきました。今ではステージに出たいという申し込みがたくさん。まちに関わるプレイヤーの皆さんがアイデアを出し合ってくれて、マルシェを進化させてくれています」
まちに愛着を持つ人が集う
「藤ノ木さんかく広場」では、平日は毎日、キッチンカーが出ています。
「この広場では、すでに事業者間のネットワークが広がっています。新しい人に、長くいる人がアドバイスしたり、情報を教えてあげたり。キッチンカー事業を始めたばかりの人にとって、初めの挑戦の場にもぴったりです」
現在、広場には15台のキッチンカーなどが登録し、定期的に来店しています。
「川西に愛着を持ってくれている事業者さんが自然と集まったことで、この広場にいった魅力が生まれました。また、この広場だけでなく、市内各地のイベントでも皆さんが活躍しているんです。引き続きサポートしながら、まちを盛り上げていきたいです」

Special Feature
特集

まちのにぎわいづくり

市の玄関口である川西能勢口駅周辺。駅前のデッキを通ったことがある人も多いでしょう
最近の週末は、市民の手によるさまざまな催しが行われています
この特集では、にぎわいを支えるプレイヤーたちの思いにふれてみます

問い合わせ 産業振興課 ☎072(740)1162

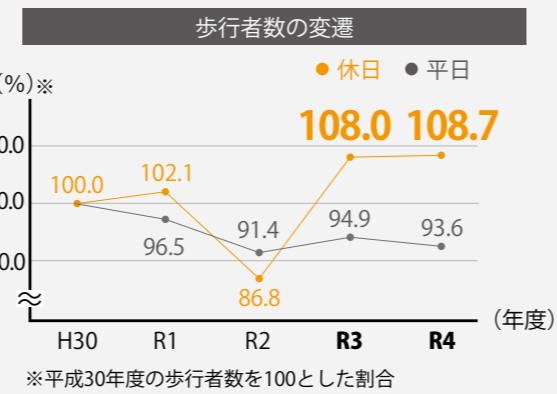


(株)地域環境計画研究所
若狭 健作さん
中心市街地をどんな人たちが行き交い、どう過ごしているのかを現場で観察する「まちなかウォッチング」事業を市から受託。

休日のまちなか人口が増加

コロナ禍でライフスタイルが変わり、平日の歩行者は以前と比べて減少していますが、休日は増加（右表参照）。駅前マルシェなど、さまざまなイベントが開催されるようになったことで、この結果が出ているのでしょう。
歩行者アンケートでは、買い物に便利、住むのにちょうど良い、などの評価が多く得られました。一方で、用事がなくても来たい、歩いて回りたい、という評価はまだ少し少ない状況。まちなかでゆっくりと、思い思いの時間が過ごせる環境を、さらに整えていかなければいけません。
今後も継続的にイベントを開催し、まちなかを楽しめる仕掛けをさらに増やしていくことで、まちに愛着を持つ人や、日常的にまちを訪れる人は増えるはずですよ。

今、すでに素晴らしい市民プレイヤーたちが育ってきています。市と市民、事業者が協力し合い、共に盛り上げていくことで、より魅力的なまちになると確信しています。



駅前空間がイベントの場に
市内で最も人が行き交い、商業施設などが集まる阪急・能勢電鉄川西能勢口駅の周辺。市の中心部であり、社会・経済・文化活動の拠点です。
同駅と商業施設を結ぶデッキは、長年「道路」としての利用しかされていませんでした。そこで市は、地域の活性化につながるために、令和元年に道路占用許可基準を緩和。空間として音楽ライブやフリーマーケットなど、さまざまな目的で利用できるようなりました。
市民によるまちづくりが盛ん
同駅東口を出て、市役所方へ進むと見えてくるのは「藤ノ木さんかく広場」。ここでもイベントの開催や、キッチンカーの出店などが行われており、同駅周辺では市民によるにぎわいづくりが盛んです。
イベントをサポートする人や、まちのプレイヤーとして活躍する人。そこにはさまざまな人がいて、それぞれ思いがあります。今回は、まちのにぎわいを支える人たちに話を聞きました。



出会いが 経験につながる



共働作業所あかね スタッフ
竹内 佳子さん

駅前マルシェは多くの人に、「障がい者共働作業所あかね」という団体を知ってもらえる機会になるので、毎回参加できてうれしいです。

駅前マルシェの日は朝が早く、荷物も多いのですが、みんな楽しんで頑張っています。他の出店者さんやお客さんなど、たくさんの人に会えるのが楽しみで、日々のモチベーションになってるみたいです。

初めのうちは、呼び込んでも足を止めてもらえないことにショックを受けるメンバーも。でもそれは誰でも経験することだと、受け止められるようになりました。その半面、足を止めて話を聞いて、商品を買ってくれたときはとても喜んでます。社会勉強の機会になっていますね。

今後も駅前マルシェへの出店を続ける予定です。見かけたらずい声を掛けてください。



初めはお客さん 今はスタッフ



MIX CAFE 店員
坂元 健さん

2年ほど前、音楽ステージに友達のバンドが出ると知って、初めて駅前マルシェに来ました。そこでお店のオーナーと知り合い意気投合して、今スタッフとして働いているんです。

お店と音楽が一体的に楽しめる、駅前マルシェの空間がとても好きです。ステージが始まったら、いつもタンバリンとかを鳴らして自分自身が一番楽しんで、店から飛び出してしまふこともあります。

駅前マルシェには、いつものメンバーか新しい人かなど関係なく、いろんな人を受け入れる温かい雰囲気があります。初めはお客さんだった僕が、気が付けばマルシェをつくる側になってました。

もっと多くの人に楽しさや魅力を知ってもらえるように、盛り上げていきたいです。



市民プレイヤーたちの声

駅前デッキの可能性

川西能勢口駅前のデッキで

毎月行われている「川西駅前ピクニックマルシェ」

そこに店を出す人たちのさまざまな夢や思いを聞きました

夢に近づくためのステップ

普段は市内の自宅の工房でお菓子を
作って、インターネット上のみで販売し
ています。

自分の店舗をまだ持っていないので、
駅前マルシェの存在を知って、すぐに店
店の申し込みをしました。

「かわいいですね」「おいしそう」な
ど、普段ネット上では聞けないお客さん
の生の声を聞くことができてうれしいで
す。自信や励みにつながっています。

また、どんな商品が人気があるか、目
に留まるのかなど、対面での接客だから
分析できることもあります。

駅前マルシェで買ってくれたことが
きっかけで、ネットでも注文してくれ
たり、リピーターになって次のマルシェに
買いに来てくれたり。出店がきっかけ
で、つながりが増えました。

お店はどこにあるんですか？と聞かれ
ることも。実は数年後、母と一緒に川西
能勢口駅周辺にお店を出すのが私の夢な
んです。

夢をかなえられるように、またお店が
できるのを待っていてくれる人の思いに
応えられるように、駅前マルシェでの出
会いを大切に、一つ一つ積み重ねてい
きたいです。



café de n'arion パティシエ
上杉 菜乃花さん



クッキーボックス
一つ一つ手作り。季
節に合わせた商品も
販売する



Home Town

市民のチカラ

駅前デッキは個人や企業も活用することができます。音楽とマルシェを同じ空間で楽しめる「ホームタウン」を開催した市在住のミュージシャンの2人に話を聞きました

日常と音楽をもっと身近に



カホン奏者
中山 拓人さん

提案してくれました」
カホン奏者としての活動以外
にも、市のイベントなどで音響
を担当する中山さんは、こう話
します。
「音楽は、元気や癒しを与え
てくれます。生活と音楽が身近
になれば、もっと元気なまちな
なるはず」
「ホームタウン」に出演する
ミュージシャンは、2人がオ
ファーするそうです。
「市外のアーティストに来て
もらえたら、その人のファン
の方たちも市外から来てもらえ
ます。このまちのことを知って、
好きになってもらえたらいいな
と思います」
次の開催は5月28日(日)。2人
はどんな楽しい仕掛けをしよ
うか、笑顔で話しながら準備を進
めています。

思い入れのある場所で堂々と歌う



シンガーソングライター
金島 準一郎さん

駅前デッキ初の民間活用とし
て、フリーライブ&マルシェ
「ホームタウン」を開催した歌
手の金島準一郎さんと、カホン
(箱型の打楽器) 奏者の中山拓
人さん。
2人とも市在住のミュージ
シャンです。それぞれ音楽活動
を行っており、駅前ピクニッ
クマルシェで出会ったことで、
「ホームタウン」をつくりあげ
る仲間となりました。
川西で最も人通りが多い場所
で、公式にストリートライブが
できることはうれしいと笑顔の
2人。
「ホームタウン」という名前
は楽曲から付けた、と金島さん。
「僕たちにとって思い入れの
ある場所で行うイベントの名前
は、地元のことを歌った僕の曲
名がぴったりだと、中山さんが

News Topics

問い合わせ 市中心市街地活性化協議会 ☎ 080(7307)8850

駅前ピクニックマルシェ



5月27日 6月24日 9月23日
10月28日 11月25日 全て 土
午前10時〜午後4時

8月と12月は夜に開催するなど、時間を変更する予定です。詳しく決まり次第、市中心市街地活性化協議会ホームページに掲載します。



藤ノ木さんかく広場

平日は毎日キッチンカーが出店。出店する店は市中心市街地活性化協議会ホームページで確認できます。
また、藤ノ木さんかく広場で、フリーマーケット

トやワークショップ、展示販売などのイベントをしたい人は、同ホームページの「広場利用募集チラシ」「ガイドライン」を確認の上、電話で同協議会へ。



まちなか交流拠点 マチノマ

中心市街地のにぎわいづくり活動の拠点として、事業者やプレイヤーの交流、情報発信を行う施設「マチノマ」を開設。まちなかの広場でのイベント開催や、マチノマでやってみたいことを相談してください。

【場所】
栄町20-1ペルフロラ川西1階
(川西能勢口駅高架下)
【時間】
午前10時〜午後4時
(水曜日、年末年始除く)



この看板がめぐるし
気軽に相談
してください

今、川西能勢口駅前ではまちづくりに関わる多くのプレイヤーが生まれています。約3年前、駅前デッキを通り過ぎたときのみではなく、さまざまなお店に活用するため、規制を見直しました。ところが、直後に新型コロナウイルス感染症がまん延。当初は十分な活動ができませんでした。また、繰り返し発生する緊急事態宣言などの影響で、イベントは常に中止のリスクを抱えながらの準備となりました。

市長メッセージ
駅前のにぎわいを市全体へ広げる
市長 越田 謙治郎



そのような中、多くのプレイヤーたちが工夫を重ね、今では定期的に活用されています。同時に、ここで生まれたプレイヤーたちが、市内外それぞれの地域で開催されているイベントに参加するなど、その

のにぎわいが広がっています。この場所では、行政ではなく市民が主体的に関わることで、多くの取り組みが継続的に進んでいます。これらは一朝一夕に生まれたものではなく、多くの方の協力があって実現できました。



藤ノ木さんかく広場でつくるつながり

みんなで使い、育む場所

キッチンカーの出店など、まちの人たちが自らの手で使い育む広場としてゆっくりと育てている「藤ノ木さんかく広場」地域にだんだんと根付きはじめ新たな交流の場が生まれています



地域に根付く店に

キッチンカー事業を計画し始めたのは3年前ほど前。まず第一に地元川西で出店したいという思いがあり、タウンマネージャーの九鬼さんに相談して、1年くらい前から、藤ノ木さんかく広場に出店しています。



cafe picnic オーナー 牧野 淳さん

この広場に再出店したい

3月末まで約4年半、藤ノ木さんかく広場で「尼崎アンシャンテ」というベビーパンケーキのキッチンカーを出店していました。藤ノ木さんかく広場は、まちの人と一緒に楽しみながら集える、いろんな可能性がある場所。こんな場所は、他のまちにはありません。出店当初からずっと心掛けていたのは、雨の日も雪の日も、できる限り出店すること。まちの人にとって、日常の一部になりたかったからです。習い事帰りの親子や近くに住む人、お年寄りなど、本当に数えきれないほどの出会いがあり、毎週会いに来てくれる常連さんでもできました。



元尼崎アンシャンテスタッフ 森 繁 龍さん